

# ARC115 A - Two Choices

## 考察

生徒  $i$  と生徒  $j$  の正答数が同じになり得ないのは、生徒  $i$  と生徒  $j$  の回答の内、回答が異なるものの数が奇数であったときである。これは、生徒  $i$  と生徒  $j$  の回答の内、1 と答えた問題の数を数えることで判断できる。生徒  $i$  と生徒  $j$  が 1 と答えた数の奇偶が同じ場合、回答が異なるものの数は必ず偶数になり、奇偶が異なる場合、必ず奇数になる。よって、全生徒の内、1 と回答した問題数が奇数であった生徒の数と偶数であった生徒の数をカウントしてかけ合わせたものが答えになる。計算量は  $O(NM)$ 。